



は た ゆ か

畠床の住宅

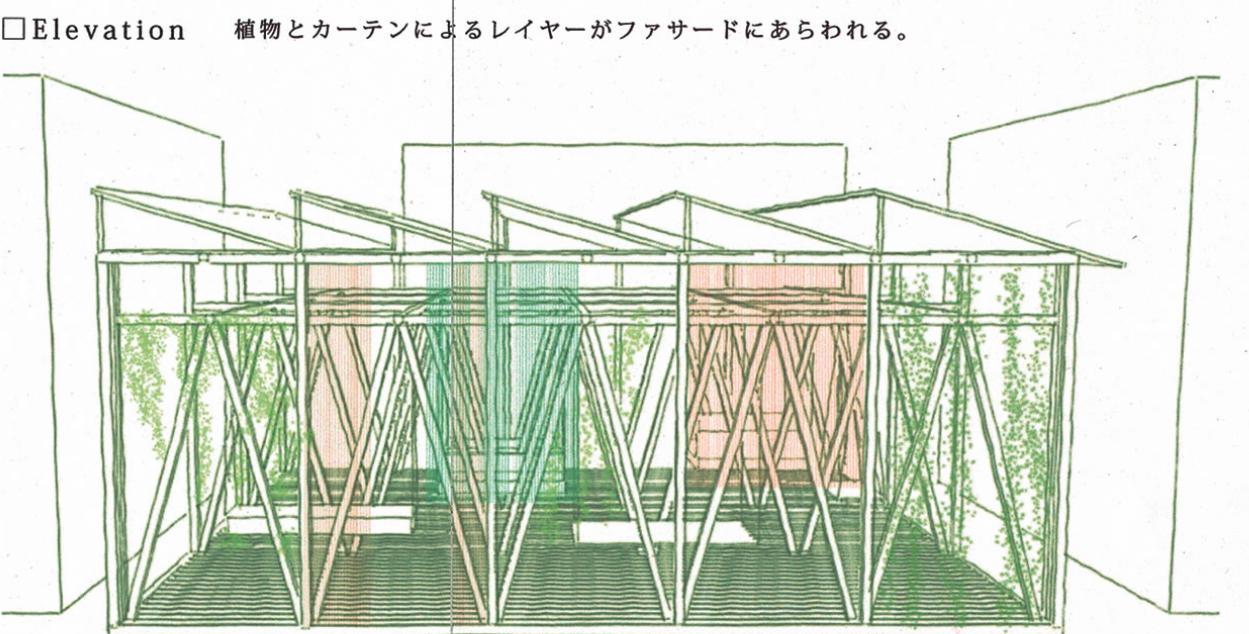
建築物の更新が難しく、空き家問題の要因の一つともなっている旗竿地の住宅。これらの価値が低い原因として、暗く狭い外部空間が挙げられる。近年、都心の住宅では敷地の狭さを有効活用したエディブルガーデンが見られるが、環境の悪い旗竿地の住宅での実現はなかなか難しい。そこで、敷地の余白に植栽を施すのではなく、敷地全体を利用して適材適所に植物を配置し、これを住宅の床とすることを提案する。植物のつくる微気候の内に家具を配置し、植物を育てながら生活をする。エディブルガーデンを取り入れることで、住宅が食糧生産の場となる。収穫された野菜を使った料理は、人々をつなげる。

これは、住宅の最初の住人を人間ではなく、植物とする試みである。

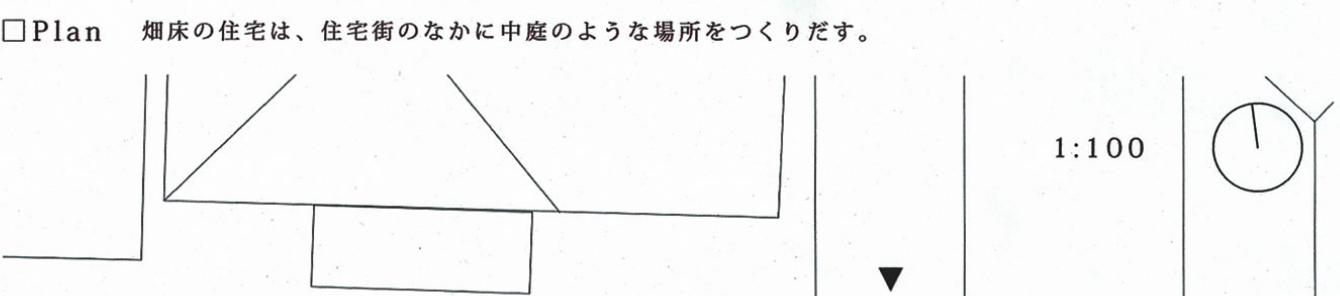
□Scene 植物と寄り添った畠の住宅での暮らしの1シーン。床、壁、天井の植物が、時間や季節の変化を教えてくれる。



A watercolor illustration of a person sitting in a large white armchair, reading a book. The person is wearing a light-colored shirt and dark pants. The setting is a garden with a wooden fence in the background. A climbing plant with green leaves and small pink flowers is growing over the fence. In the foreground, there are various plants, including a rose bush and some leafy greens. The overall style is soft and painterly.



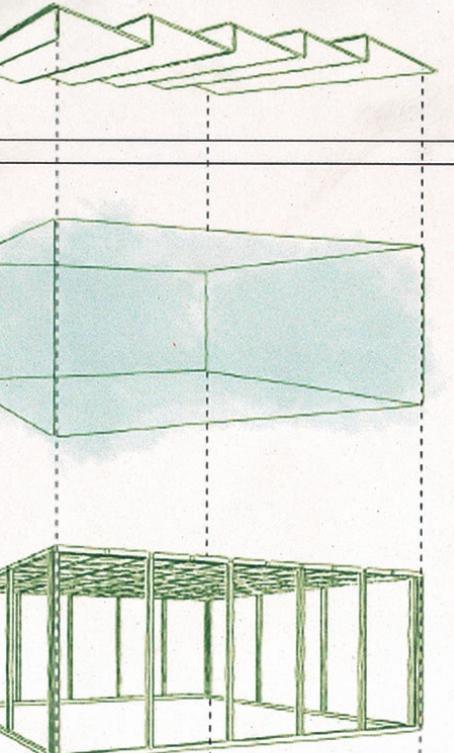
Elevation 植物とカーテンによるレイヤーがファサードにあらわれる。



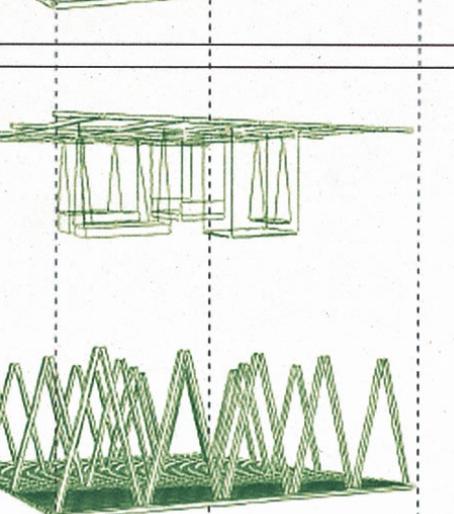
□ Plan 畑床の住宅は、住宅街のなかに中庭のような場所をつくりだす。



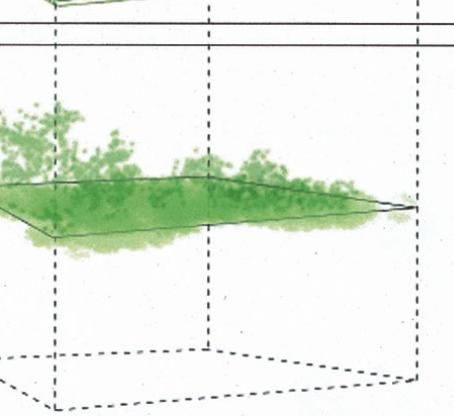
・南方の光を取り込む屋根がかけられる。



四周を開口部のない建物によって囲まれている旗竿地の特徴を利用し、集光するガラス壁面を全面に用いる。ぶどう棚のような構造体からは、つる物やカーテンが吊り下げられ、大きなワンルームがやさしく仕切られる。



呼吸する床を傷
けないために、吊り
具を設置し、住宅の
面を解放する。吊り
具はプランコに見ら
るような斜材で支え
れる。家具の配置は、
物の位置と住人のラ
フスタイルを考慮し
がら決められる。



敷地境界いっぱいに食べられる植物の園であるエディブル・オーデンを設える。敷地の微気候をとらえ、日照時間など、植物が育するのに必要な条件を考慮しながら、共にさせる植物の組み合せを決める。